



防災出前講座



99%といわれていた宮城県沖を含む東北沖で地震は起こりました。東海地震が起こる確率は87%といわれています。首都をとりまく三つの断層も地震の可能性が高まったといわれ、さらに三浦断層群が加わりました。最近ではそれよりも危険性が高いといわれ始めたのが首都直下型地震です。

世界で発生している地震の10%は日本で発生し、震度1以上の有感地震年間2000回を超えています。日本はどこにいても地震から逃れることができません。

災害で命を失わない、被害を最小限にする、大切なのは減災と防災です。ちょっとしたきっかけと繰り返しの訓練が防災力を強めます。

建築・地盤・福祉などの専門家が、地域、町会、自治会、マンション管理組合、職場、学校、自主グループ、お子様の集まりなどを対象に工夫をしてお話をします。

<主な内容> (映像と資料を使います)

- ①東日本大震災の被害から地震の状況を把握する
- ②防災力診断チェックシート あなたの防災力は?
- ③まず、緊急簡易防災マニュアルを考えてみる
- ④地震に備える(室内編・管理組合編・職場編・学校編など)
- ⑤グラッときたら身の安全 持って歩いて安心



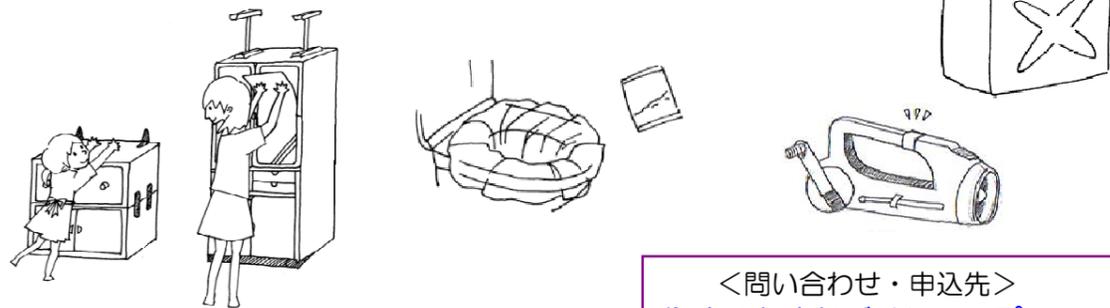
内容については、ご要望をお聞かせいただければ、プログラムを検討します。

時間は、1時間30分~2時間を目安にしています。

費用の目安は3万円~10万円 (時間や場所により金額を相談させていただきます)

時間や費用についても、お気軽にご相談ください。

地震の基礎知識や地盤の話などを付け加えてのコースも可能です。



戸建て・マンションの耐震診断・補強など、住まいに関する相談もおこなっています。

—お気軽にお問い合わせください—

<問い合わせ・申込先>
住まいとまちづくりコープ
NPO 法人設計協同フォーラム
 (事務局) 山下千佳
 TEL03-5986-1630 / FAX03-5986-1629
 メール sumaimachi@sumaimachi.net



災害に備える!

安心・安全な住まいとまちづくり

被災地支援と防災講座

「東日本大震災のとき、あなたはどうでしたか?」と問いかけ、震度7の地域はそんなに多くはなく、震度6ならばその数十倍、震度5の地域ならば100倍という単位になり、全国のそれぞれの地域で様々な強さの地震を体験したことになります。そのことをもって、「同じ地震なら被害を出さない、少し大きくても被害を最小限にする、もっと大きな地震でも壊滅的な被害にならない」それにはどうしたらいいかと各地で話しました。防災出前講座は、約60箇所、2500人近い方に聞いていただきました。

各企画は、関心の高さから予定している人数の倍は集まるという状況でした。

私たちにできることは「過去の災害の状況を知らせることで自然災害の脅威をわかってもらう、被災地を支援しながら求められていることを伝えていくことです。そして災害を身近に感じて何をすべきなのか、したら良いのかを考えて実践してもらう、人災を生まない、許さない」そんな気持ちを込めて、防災啓蒙活動を進めることです。

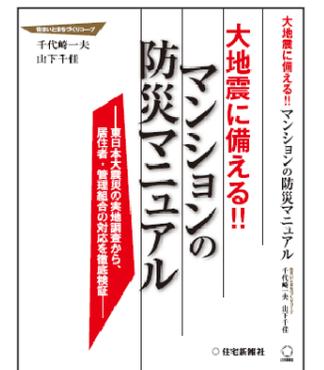
「防災マニュアル本」好評発売中

2011年9月1日防災の日にあわせて『大地震に備える!! マンションの防災マニュアル—東日本大震災の実地調査から、居住者・管理組合の対応を徹底検証—』という本を書きました。

東日本大震災が起き4月に入ってから執筆の話をいただき、日常の業務と被災地調査と支援、講演活動や講座などの開催と目まぐるしく忙しい中で、被災地のこと、防災と減災への思いに背中を押されて書き上げることができました。今振り替えば不十分なところも多々ありますが、より多くの方に知ってもらえるツールとして大きな成果につながりました。

本を読んだ感想、質問、講座や取材などにも結びつきました。

2011.9.1 住宅新報社1500円(税別)



◆住宅・マンションのこと、なんでもご相談下さい ◆快適・長生き 100年マンション・団地

住まいとまちづくりコープ

〒174-0072 板橋区南常盤台 1-38-11 福興電気 1F 千代崎一夫/山下千佳

TEL 03-5986-1630 FAX 03-5986-1629

Mail sumaimachi@sumaimachi.net http://sumaimachi.net



阪神・淡路大震災(マグニチュード7.3)では、6,434人の方が亡くなり、43,792人が負傷するという大きな被害が出ました。直後に亡くなられた方は、約5,500人、要因は、建物の倒壊や家具の転倒が83%、火災が12%とされています。

教訓としては、建物の耐震・耐火性の向上、建物室内の家具等の転倒防止、避難路・救護消防活動空間の確保などが挙げられます。

建築関係者としては、コミュニティがあっても、広い公園があっても、一瞬にして建物の倒壊によって命を奪われた現実を第1に考えなければならないと思っています。

「震災を忘れない」そんな思いから1月17日5時46分に神戸でおこなわれる「阪神淡路大震災メモリアル集会」に参加しています。

今年は18周年です。

自然災害で多くの尊い命が失われています。最初に被災地を目にしたときに思うことは、人間の無力さです。災害によっておこるたくさんの困難をなくすことは到底できませんが、人が死なない、命を奪われないことを原点に「防災」を追求すること、被災地に足を運び、亡くなった方の声なき訴えを教訓に、次に来る災害に対して私たちができることを形と行動にしていくことが必要だと思っています。



マンションの耐震診断・補強に関する業務

＜耐震診断・補強コンサルタント業務＞

耐震診断・耐震補強に関する業務は、管理組合やお住まいの方にわかる言葉で診断の意味を伝え、不安の解消、将来も住み続けられる保証であると説明をすることからはじめます。

みなさんからの質問も正確にかつ共通の言葉でわかってもらえるように努力をしています。それをコーディネートと呼び、業務としています。

業務を進めるにあたっては、構造事務所どころか建築士もいない事務所なので当然、他の事務所に診断の協力を依頼することになります。

＜診断事務所選定＞

マンション内公募と当事務所から紹介する複数の会社に見積参加を依頼し、書類を取り寄せます。公募も紹介も同様に対応をしています。理事会で承認を得て現場説明会をおこないます。

見積は複数箇所に送ってもらい、どの会社も後出しや2度出しが出来ないように工夫をしています。これは公平公正に選んでいるのだということを内外に表しているものです。見積もりの額その他を見ながら有力会社を選んで、複数の会社と面談をします。決定後は、契約、診断開始と続いていきます。

＜診断結果の説明は大変重要＞

耐震補強案と概算に納得すれば、耐震設計に進みます。補強工事も同様にマンション内公募をおこなっています。

テレビ番組などさまざまな情報が発信されています。住民も次々に新しい言葉を覚え、それに対してきちんと答えられるように努力をしています。納得してもらえる答えに導くことができればそれだけ耐震診断・耐震補強が実行され災害時の犠牲者がすくなくなくなると思っています。



耐震診断コーディネートをした6つのマンション

| マンション 地区/竣工年 | Tマンション 目黒区 1970 9階 37戸 | N団地 川崎市 1971 5階建て9棟 240戸 | Cマンション 新宿区 1971 14階+地下 2階 100戸 | Pマンション 板橋区 1972 11階 60戸 | Nマンション 板橋区 1973 14階 138戸 | Vマンション 板橋区 1978 7階 22戸 |
|-----------------|------------------------------|-----------------------------------|---|-------------------------------|--------------------------------|------------------------------|
| 診断 | 住まいまち +構造 | 見積時調査 | JASO | 構造 | 構造 | 構造 |
| 診断結果 | NG | 壁式のため GOOD | 0.8を割る が良い | NG | 部分 NG | 2013年 予定 |

第79回住まいとまちづくり講座「防災編」

住まいとまちづくり講座「地震に負けないマンションとまちづくり」を2012年3月4日(日)に板橋区立グリーンホールで開催しました。マンション維持管理支援・専門家ネットワークの「第21回マンション維持管理 講座・公開相談会」として位置づけ、板橋区の後援を得ておこなわれました。午前中から東日本大震災をはじめとする災害の様子をパネルにして見てもらえるようにしました。

講座1「耐震診断・耐震補強の必要性と行政の助成制度」

講師の吉野敏郎氏(東京都都市整備局耐震化推進担当課長)は「東京における緊急輸送道路沿道建築物の耐震化を推進する条例」についてパワーポイントを使って話をされました。この制度は「震災時は避難、救急救命、消火活動、物資の輸送、復旧を支える生命線・大動脈を確保するために沿道への倒壊をさせない」というものです。

＜目次項目＞

- 1, 条例の目的
- 2, 条例の概要
- 3, 耐震診断の助成
- 4, 耐震設計助成
- 5, 耐震改修助成
- 6, その他の支援活動



「主要道路の沿線は診断に対しても補強工事に対しても助成が進むかも知れないが、高速道路や立体交差は大丈夫ですか？」という質問に対して「それぞれが耐震補強をしているので大丈夫」という答えでした。

次の日に「首都高速老朽化」というニュースが大きく出ました。耐震化ということで「柱の補強」「揺れても桁から路床が落ちないように」という補強はやっていましたが、肝心の本体が老朽化ということでは全くちぐはぐな対応になっています。正しい維持管理ができていないことが分かります。

講座2「東日本大震災から考える首都圏のマンションでできること」(千代崎・山下の話)

「長生きマンション長生き団地」という観点から防災問題をどのように考えていたのか、また、地震災害と東日本大震災の被害から何を学ぶべきかという話しをしました。

＜主な項目＞

- ・東日本大震災の被害は深刻で大規模
- ・首都圏の地震の想定
- ・震度5の経験を活かそう
- ・東北の被害
- ・首都圏での被害
- ・東京での備え
- ・『自助・共助・公助』のごまかし『自護・協助・公責任』
- ・死者を出さない怪我しない、逃げ出さなくても良い住まいとまちづくりを目指そう
- ・情報公開と住民参画が必要
- ・液状化対策
- ・住民による法的な動き
- ・都民の目で検証を
- ・都民が助かる防災計画をつくらせよう
- ・住民による防災講座を無数に開きましよう

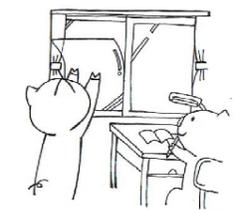
地震に備える

安全ゾーンをつくる、見つける

- ・室内の安全 家具・家電等の転倒防止
- ・グラッときたら身の安全 頭と目を守る
- ・地震はいつどこで起こるか分からない

マンションの防災計画案

- ①目的
- ②体制
- ③安否確認 優先順位
- ④資機材の活用
- ⑤備蓄
- ⑥エレベーターのチェック
- ⑦地域との連携・協力
- ⑧訓練
- ⑨耐震や耐火・防火性能向上
- ⑩コミュニティ



防災計画作り

- 1) 3回ぐらいの会合で一通りのマニュアルをつくってみる。
- 2) 理事会内でのシミュレーションをする。
- 3) 必要な修正をおこなって防災マニュアル理事会案の完成
- 4) 訓練で使うなど応用をしてみる。
- 5) 参加者全員で修正や補強をおこなう。
防災マニュアルバージョン1の完成!